

平成20年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ継続プログラム
「生活環境の課題発見・解決型女性研究者養成」教育プログラム
「学生による国際的研究セミナー」実施報告書

平成 21年 1月 13日

教育プログラム推進委員会 殿

国際的研究セミナーの実施について、下記のとおり報告します。

記

(以下の報告については、HP上での掲載及び印刷物等として公表される場合があります。)

1. 氏名 (代表者)	フリガナ オオタカ マキコ 大高 牧子
2. 所属等	大学院人間文化研究科 博士前期課程 住環境学専攻 2回生
3. 共同実施者の 学生氏名・所 属等	1. 津崎 貴子 大学院人間文化研究科 博士前期課程 住環境学専攻 2回生 2. 張 秀敏 大学院人間文化研究科 博士前期課程 住環境学専攻 2回生 3. 松本 歩子 大学院人間文化研究科 博士前期課程 住環境学専攻 2回生
4. セミナー等 の名称	第2回 東海大学(台湾)－奈良女子大学(日本)国際セミナー 『地域社会で支える子どもと高齢者のためのまちづくり』
5. 開催地	都市名 台湾 台中市 会場 東海大学

6. 開催期間	2008年 12月 11日～ 2008年 12月 14日
7. セミナー等の講師	・林 珠雪(東海大学日本語学科) ・黄 淑燕(東海大学日本語学科) ・林 嘉恵(東海大学日本語学科) ・紀 朝栄(東海大学日本語学科) ・王 怡人(東海大学日本語学科)
8. 開催規模	(開催規模はおおよその数で結構です) 参加者数 100名
<p>9. セミナー等の内容</p> <p>2008年12月12～13日の二日間に渡って、「第2回台日国際交流セミナー」が開催された。</p> <p>1日目は、合同ワークショップを行った。台湾の原住民族に対するさまざまな活動・教育を行っている施設を訪問し、民族衣装を着たり、一緒にダンスを踊ったりなど、原住民の高齢者や子どもたちとの交流を楽しんだ。そして都市原住民と呼ばれる彼らに対する国の施策や、普段の生活、意識について実際に伺い、学んだ。</p> <p>2日目は、台中の東海大学において『コミュニティー支援システムの成立と発展－台湾・日本・中国の事例を見る－』をテーマに、発表とディスカッションを行った。</p> <p>日本側は、『地域社会で支える子どもと高齢者のためのまちづくり』をテーマに、子どもや高齢者のための施設、コミュニティーにおける支援事業に焦点を当て、その施策の現状に関して具体的事例を踏まえながら発表をした。ディスカッションでは、「貴方たちの研究は自分の国、都市、コミュニティー福祉向上の実践にどのように関わっているのか。」といった質問を頂き、子どもや高齢者に対する国の施策がいかに現場で生かされるべきかなどの議論がなされた。</p> <p>また、台湾側は、『東海大学周辺の支援システム』、『龍井コミュニティーの都市原住民への生活、及び教育の支援状況』をテーマに、主に学校現場で実施されている原住民族の子どもたちに対する実践的教育活動の現状を、台湾社会の弱勢層に対する支援の成功例として紹介された。台湾の政府や地域だけではなく、大学も少数民族に対して社会で平等に生活できるように努力していることに大変感心した。さらに、セミナーの休憩時間には、原住民の中学生による伝統的なダンスを披露して頂き、原住民の子供たちの元気さと生命力に感動した。</p> <p>セミナー後には、東海大学内にて懇親会パーティが開かれ、台湾側の発表者、発表会場に来て頂いた人たちと、発表内容に関して、日本、中国の大陸と台湾との違いについて、また、今後の両大学の継続的な交流について等、意見を交わし、親交を深めることができた。</p>	

10. 成果及びその他参考となる事項

(この事業で得られた成果について記載願います。「生活環境の課題発見・解決に関わる成果」は必ず記載。)

本セミナーは、台湾・台中市の東海大学で開催され、『コミュニティー支援システムの成立と発展－台湾・日本・中国の事例を見る－』をテーマに、日本側と台湾側それぞれの発表とディスカッションが行われた。両者の発表は、各々の社会における弱勢層に対する支援に関する研究という点で共通している。しかし、日本側が、「国」の制度や「自治体」における先進的事例の紹介等、政策における広域的な評価を中心としているのに対し、台湾側は、「学校現場」における実践的教育活動の成功例という、人々にとってごく身近かつ狭小な範囲で実施されている取り組みを挙げていたことに、両者の研究における視点の違いを感じた。

質疑応答においては、「貴方たちの研究は自分の国、都市、コミュニティー福祉向上の実践にどのように関わっていけるのか。」という質問を頂き、自分たちの研究がどのように現場で生かされるのか、自らの研究における実践的な方向性について考えさせられる良い機会となった。

また、台湾側から多数の専門家の方にご出席頂き、同じテーマの中で、歴史的文化的違いから、多くのご意見、ご指摘を頂き、密な議論をもつことができた。

東海大学との共同セミナーは、2008年に引き続き今回で2回目を迎えた。東海大学とは、今後も継続的な交流を続け、来年以降も東海大学との共同セミナーを開催することで意向が一致している。東海大学及び奈良女子大学両校の交流を進める上で、とても貴重なセミナーとなった。

11. 指導教員の確認

2009年 1月 13日

署名 中山 徹